

District 2660 **Moriguchi Evening**
 Rotary Club 2022-2023 Weekly Bulletin no.19

創立 2000年11月2日
 例会日 木曜日 18:30-19:30
 例会場 ホテル・アゴーラ大阪守口
 事務局 守口市河原町10-5
 ホテル・アゴーラ大阪守口5F
 TEL06-6995-7440 FAX06-6995-7441
 会長 福田 治夫
 幹事 北山 展弘
 会報担当 クラブ運営委員会
 E-mail m-evening@msj.biglobe.ne.jp
 http://www7b.biglobe.ne.jp/~m-eveningrc/

- ◆国際ロータリー会長 ジェニファーE.ジョーンズ
- ◆第2660地区ガバナー 宮里 唯子
- ◆クラブテーマ「イマジンロータリー」

本日例会 2023年 3月 2日(木) 第924回

担当：会員組織委員会
 卓話：「オーラルフレイル
 について」
 藤井 良郎 会員

会長の時間

本日例会前にライラ実行委員会の打合せをしました。先週お知らせしたとおり、地区財務委員会へ書類を提出し、細かな調整をメール等で行っています。ホストクラブの役割として、3/1～3/31の早い時期にライラのPR活動(例会訪問)を実施したいと思います。ご担当いただける方はご協力をお願いします。なお、IM3組内につきましては、先日開催された燦々会(会長幹事会)にて、ガバナー補佐の承認を得て原案でのPRを行い、各クラブへの訪問は行わないということで報告しています。また4月9日に現地視察を行います。ロータリーパパ、ママ担当の方と開講式及び閉講式時に出席していただける方にも現地を確認していただくため、ご参加いただきたいと思います。当日は、研修を担当するチームライラのメンバーも現地リハーサルを実施しますので、併せてよろしくお願いします。出欠につきましては食事予約の都合もありますので、改めて確認をさせていただきますが皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

前回例会 2023年 2月16日(木) 第923回

- 1.開会 会長
- 2.ロータリーソング「我等の生業」
- 3.ニコニコ箱報告(小計2,000円 累計306,000円)
 長野会員 卓話よろしくお願ひします。
- 4.委員会報告
 - 委嘱状 2023～24年度
 地区ライラ委員会 北山会員
 地区インターアクト委員会 水谷会員

○トルコ地震災害義援金募金活動実施
 1回目募金額 34000円

- 5.幹事報告
 - 休会連絡 2月23日(木) 祝日休会
 - 事務局閉局連絡 2/20(月)～21(火)
 - 次回例会開催案内
 3月2日(木) 通常例会開催
 18:00より定例理事会開催

- 6.出席報告(会員総数23名)
 2月16日 出席13名 欠席10名 出席率56.52%
 メークアップ報告なし

- 7.会長の時間
- 8.本日のプログラム
 担当：クラブ運営委員会
 卓話：「自衛隊大物OBは告発する」
 卓話者：長野 良雄会員
- 9.閉会 会長
 ○親睦食事会 於：「ザ・ループ」

INFORMATION

次回例会 2023年 3月 9日(木) 第925回

親睦例会開催
 卓話担当：社会奉仕委員会 (15分卓話)

3月の予定

3月 2日(木) 通常例会
 9日(木) 親睦例会
 16日(木) 振替休会
 23日(木) 細則休会
 25日(土) 移動例会「ロータリーデー」
 時間 13:30～16:00
 会場 アルカスホール
 ホスト 寝屋川RC
 30日(木) 定款休会

卓話 「自衛隊大物OBは告発する」 長野 良雄 会員

文藝春秋9月号掲載記事より紹介します。陸上自衛隊元幕僚長岡部俊哉。習志野第一空挺団出身、組織ど真ん中のキャリアパスを経て陸幕長に昇りつめながら2017年稲田防衛大臣とともに引責辞任。豪胆と緻密が同居する統率力で今だ信奉者の多い元陸将。

○御巢鷹山でのトラウマ

岡部のキャリアは1985年日航機墜落事故から幕を開けたといえる。それは人生最悪の現場だった。現場から戻って約ひと月、アパートのベランダに毎夜自分が収容した死者達が並んだ。死臭が脳裏から消えず肉が食べられない。職場では強気を装うも家に帰るとウイスキーを浴びるように飲んだ。後にそれがASD(急性ストレス障害)の典型的症状だと知り、隊員の心のケアがいかに重要かを痛感した。究極の現場で隊員は文字通り命を張った。しかし社会から向けられた言葉は「自衛隊の出動遅い」。当時の自衛隊は暗視能力が低く、山岳地帯における夜間のヘリコプターの運用は困難。墜落現場が特定されない中、部隊主力は徒歩で暗夜の山地を踏破していた。

○旧軍の負債を背負って

自衛隊の生みの親たる吉田茂は1959年、防大1期生に対して「君たちは自衛隊在籍中、決して国民から感謝されたり、歓迎されたりすることなく自衛隊を終わるかもしれない。非難と誹謗ばかりの一生かもしれない」と語った。吉田の言葉通り憲法問題では鬼子扱い、冷戦時代は税金泥棒と揶揄された。国民との距離を縮めようと取り組んできた「ご近所付き合い」つまり民生支援やボランティア活動はちょっと驚くほどだ。青森県でリンゴの摘花作業に参加し始めたのが1969年。この春も120人余りの援農ボランティアが農家の人手不足を支援。北陸の部隊は霜害対策でも出動した。田植えや稲刈りを手伝ってきた地域もあり、その時期に演習が重なると地元からは批判の嵐が起きたという。札幌雪祭りでは裏方を支える。例年、北部方面輸送隊は大型輸送車1000台分の雪を会場に運搬、数百人を動員して巨大な雪像を制作。これが雪祭りの目玉となっている。ちなみに市民雪像の裏方も自衛隊。平日は忙しい市民に代わり迷彩服の隊員たちが作業にあたる。ご近所付き合いに比べ災害派遣は判断基準が厳格。派遣要請を受けると防衛大臣らが緊急性、公共性、非代替性の三要件を総合的に勘案し、やむを得ないと認める場合にのみ部隊を派遣する。その災害派遣においても岡部には苦い思い出がある。2004年第28普通科連隊長(函館)時代。わずか10か月の間に4度の災害派遣。全てキノコ狩りや山菜取りで迷った市民の捜索だ。自衛隊が動けば大人数で効率が良く人件費もタダ。岡部は言う「三要件を満たす災害ならば迷うことなく部隊を指揮して出動しますが、これは全て個人都合の行方不明者捜索です。人命

に関わるとはいえ公共性はもちろん非代替性も該当しない。お世話になっている地元から頼まれるとNOと言いくいのですが、これだけ頻繁に出動すると部隊任務はこなせません。同じような事例は各地に結構あると思います。

○過酷な家畜の殺処分

総務省が農水省に対し「自衛隊への安易な依存」を戒める異例の勧告を出した。問題とされたのは家畜の殺処分。京都で初めて鳥インフルエンザに対する災害派遣を引き受けて以降、豚コレラや牛の口蹄疫まで家畜の大量殺処分が全国的に自衛隊に任された。総務省によると9つの自治体で家畜処分動員計画が策定されていなかったり、市町村に動員を求めぬまま自衛隊に作業を丸投げしていた事実が明らかになった。防護服を装着し何日も延々と動物を殺す任務だ。感染予防のため異臭の漂う現場で食事し寝泊りすることもしばしば。大量の殺処分が続いてPTSDに苦しむ隊員もおり、省内の専門チームが心のケアに当たっています。

○撤収のタイミング

災害現場で指揮官が常に頭を抱えるのが撤収のタイミング。緊急を要する人命救助や道路の啓開が一段落し、地方自治体や民間業者の作業が可能になり、人々が自力による生活再建への移る。その見極めである。被災地で自衛隊が提供する食事、水も電気もない中での風呂。障害を持つ人や高齢者へのケアまで心配りが行き届く。市民からすれば一日でも長く生活支援を続けて欲しい。隊員たちも市民から感謝されれば喜んで汗を流す。政治は派遣には前のめりになるが、撤収になると我関せず。有力な政治家の意向で、撤収させてもらえない地域、選挙区も多いという。派遣を求めるときは可及的速やかに実施することとなるため、タイミングの幅はほとんどないのに対し、撤収は選択の幅があり、国民、住民の納得が得られにくい場合もありうるのではないかと。派遣は前向きに評価されることが多いのに対し、撤収は後ろ向きに感じられる場合もあるのではないかと思います。

○実名で踏み込んだOBの意気

自衛隊には災害出動さえやってもらえたらいいのか、いや国防こそが務めなのか。自衛隊のありようをめぐる議論は、国民自身が問われる問題でもある。今回OBたちが実名で踏み込んだのも「すべては後輩たちの業務遂行に資するため」との思いから。その意気を活かす環境があることを祈りたい。吉田茂が防大1期生に語った言葉には続きがある。「自衛隊が国民から歓迎されチャホヤされる事態とは、外国から攻撃されて国家存亡の時か、災害派遣の時か、国民が困窮し国家が混乱に直面している時だけなのだ。言葉を換えれば君たちが日陰者であるときの方が国民や日本は幸せなのだ。」災害派遣そして国土防衛。自衛隊に対する期待がかつてなく高まる昨今の状況は、国民にとって決して歓迎されるべきものでないことは肝に銘じておきたい。